

令和5年度 事業報告

Road to next generation

～ 次世代への道 ～



社会福祉法人

あすか会

～ 目 次 ～

1. はじめに	3
2. 組織の活性化	3
3. 人材確保／人材定着／人材育成	5
4. BCP の策定	5
5. SDGs へ向けての取り組み	5
6. 魅力ある日中活動	6
7. 地域交流・地域づくり	6
8. 連携及び協力に関する協定の促進	6

各事業所／部署の事業報告

テーマ 「 Road to next generation ～次世代への道～ 」

9. 事務部	7
--------	---

支 援 部

10. 障害者支援施設あすかの家	9
11. 相談支援事業所あすかの家	19
12. 生活介護事業所あすか	24
13. ちやのきのいえ	33
14. 就労継続支援 B 型事業所あすか	36

「障害者支援施設あすかの家」「ちやのきのいえ」医務

17. 医 務 部	41
-----------	----

経営理念

「私たちは地域課題を解決するための中心的存在となり、社会福祉事業従事者としての責任を背負うことで、すべての人が安心して暮らせる社会を目指し、幸福追求のための新たな価値観を創造します」

支援方針

- (1) すべての人を受け入れられる懐の深い支援を目指します
- (2) 一緒に考え、一緒に悩み、共に成長できる支援を目指します
- (3) 自らが幸せになることで周りを幸せにできる支援を目指します
- (4) 言葉にならない苦しみに寄り添い、思いやりのある支援を目指します
- (5) 一人ひとりが大切にされていると感じられる個別支援を目指します

職員モットー

- (あ) あいさつ…気持ちの良い挨拶をします
- (す) すまいる…爽やかな笑顔を心掛けます
- (か) かんしゃ…他人に対する感謝の気持ちを忘れません

<p>令和5年度 社会福祉法人あすか会テーマ 「 Road to next generation ～次世代への道～」</p>
--

～ Road to next generation 次世代への道 ～

1. はじめに

激変する社会情勢の中、障害者福祉を取り巻く環境も大きく変わってきています。障害福祉も契約制度になって久しく、利用者がサービスを選べる時代になってきました。福祉業に参入してくる他業種の企業も増え、利用者の選択の幅は広がっています。利用者にとっては良い事ですが、事業者側にとっては、利用者の争奪戦が始まっているのが現実です。

質の高いサービスを提供することで、選ばれる法人を目指したいのですが、労働人口は減り、介護職の有効求人倍率も 3.46 と従業員の確保が難しくなっています。

このような状況下で社会福祉法人だからこそできる支援を目指し、持続可能な組織とするために、次世代へどうバトンを渡していくのかが「社会福祉法人あすか会」の課題です。次世代へ事業承継をするために、組織の再編を目指し、取り組んできた1年でした。急に、組織の体質は変わりませんが、一步一步前進していきたいと思えます。

そんな中、今年度は残念な事がありました。虐待による行政指導が入りました。警察通報も行いましたが、刑事事件にはならず、嚴重注意されました。利用者様をはじめ、ご家族、関係者の皆様にも多大なるご心配とご迷惑をおかけしました。心よりお詫び申し上げます。

当該職員は辞職致しましたが、残された従業員の心のケアを行っていかなくてはなりません。さらに、病気、怪我で長期休養する従業員がいます。定期的にストレスチェックを行う、従業員の相談窓口を設けるなどして従業員のメンタルヘルスに力を入れていきます。

従業員が笑顔で働けることが、利用者やご家族の幸せにつながります。職場環境を整えることで、従業員が安心して働け、社会福祉法人あすか会が持続可能な法人になるように引き続き努力していきます。

2. 組織の活性化

地域福祉及びあすか会の利用者のニーズに応えるため「生活介護事業所」と「グループホーム」の新築を目指してきました。より多くの方の安心と幸せを提供できる法人となり、それが従業員のやり甲斐につながると思い、計画を進めて

きました。

しかし、従業員の確保、定着が難しく、在籍している職員の負担を考えると計画通りに事業を進めていくのは難しいと判断致しました。令和4年度、5年度と国庫補助金を申請して参りましたが、対象外となったため、補助金の申請を取り下げました。大きな建物で一度に「生活介護事業所」と「グループホーム」の完成を目指しましたが、規模を縮小し、少しずつ事業展開を行って参ります。まず、従業員が安心して働ける組織作りを目指します。

これまで、法人全体を一つの事業所の様に管理運営して参りましたが、これからは各事業所単位での運営を目指し、ガバナンスの強化を図っていくことに致しました。急に組織の在り方は変わりませんが、少しずつリーダー層の意識は変わってきました。これが少しずつ浸透していけば、次世代のリーダーが育つと考えています。

現在、どの事業所も次の管理者、サービス管理責任者候補がいません。計画的に事業承継していくことが、組織の活性化につながると思います。新しい事業所建築と共に人材の確保、育成に力を注いでいかななくてはなりません。

1) リーダー層の育成について

(1) 各事業所、各事業の管理者に権限と責任を与える

少しずつではありますが、各事業所判断で事業を行うようになってきました。引き続き、組織の活性化に向けて取り組んでいきます。

(2) サービス管理責任者の育成

次のサービス管理責任者が育ってきていません。サービス管理責任者の養成に力を入れていきます。現在、管理者およびサービス管理責任者の業務が多すぎます。これでは、次に管理者やサービス管理責任者になりたいと思えません。管理者及びサービス管理責任者の業務も見直していく必要があります。

(3) リーダー層の研修の徹底

現在の業務量の中で、十分にリーダー層の研修に時間を割くことができませんでした。各個人は非常に熱心に業務に取り組んでくれています。課題は後進の育成だと思えます。

2) 運営への若手の登用

運営会議に現場の職員が参加できるようにしました。しかし、現場からの視点しかなく、法人運営の視点にまでには至りません。まだ時間はかかると思いますが、次の世代への事業を引き継ぐために、これからも続けていきます。

3) 新役員の選任

新役員の選任を行いました。県からの指導により監事の交代を行いました。任期は2年になっています。

3. 人材確保／人材定着／人材育成

予算を割いて人材の確保、定着に取り組んできました。以前から人手不足は感じていましたが、いよいよ運営に支障をきたすのではないかとという危機感を感じるようになってきました。何とか人員配置基準は満たせていますが、常にぎりぎりの状態であり、一人退職したら、すぐに求人募集をしなくてはならない状況です。

また、今年度は新卒の採用はなく、福祉・介護職の人材離れを実感しています。今後は、新卒に力を入れるより、中途採用に力を入れていきます。また、近い将来にそなえ、外国人の受け入れも検討していく必要があるでしょう。

従業員数の推移（法人全体）

	人 数		人 数
令和5年4月1日	56人	令和6年3月31日	59人
入 職 者	10人	退 職 者	7人

4. BCP（事業継続計画）の策定

太子町商工会から講師を派遣して頂き、BCPの策定ができました。担当者にはかなりの労力でした。令和6年度より義務化されるBCPの策定に間に合わせることができました。これからは、現場の職員に浸透させていくことに力を注いでいきます。

5. SDGs へ向けての取り組み

株式会社 OFFICE KAJIYANO の監修のもと、社会福祉法人あすか会の SDGs に取り組みました。その結界はホームページに掲載されています。県の認定企業に申請予定です。

6. 魅力ある日中活動

ミロゴ・ベノワさん（アフリカ音楽）、AYAさん（ヨガ）、京極朋彦さん（ケアダンス）らを講師に招き、ワークショップを行っています。事業所内に外部の目が入るのは、支援の透明性が確保されると共に、利用者の喜びになります。来年度も継続していく予定です。

7. 地域交流・地域づくり

地域イベントを開催したり、参加したり地域に向けてあすか会の存在を発信することができました。また、夕方からちやのき cafe を学習室として開放したり、研修会を行ったり、公益的な活動にも取り組んでいます。

8. 連携及び協力に関する協定の促進

令和5年2月14日に太子町役場において、太子町と社会福祉法人あすか会との間で、「連携及び協力に関する協定の促進（包括連携協定）」を締結しました。太子町内の福祉の向上、地域活性化、まちづくりの分野で地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的とした活動を行いました。

この協定のおかげで、公共施設を優先的に貸して頂き、社会福祉課と連携して、講演会やふくしフェスティバルを開催することができました。

各事業所／部署の事業報告

テーマ 「 Road to next generation 次世代への道 」

9. 事務部

今年度は、就業規則・給与支払い規程を見直し、年間休日数を増やすなど職員の労働環境及び待遇の改善を図りました。また、常に人材の確保・補充に配慮し、各事業所において適正な人員配置を維持できるように努めました。

今後も持続可能な法人運営ができるように仕組みを整えていくとともに、職員が働き易く、やりがいを感じられる職場環境を実現できるよう、これからも業務に精励致します。

基本方針

- 1) 労働環境を整備し、「職員が働きやすい職場」の実現を目指す。
- 2) 経理・人事・労務・庶務などの一般的な事務業務を適切に遂行する。
- 3) 法令遵守（コンプライアンス）の意識を高める。
- 4) 事務作業の省力化・効率化を目指す。

重点項目の実施報告

- 1) 就業規則の改定
 - (1) 年間休日数を 100 日から 108 日に増加した。大幅な職員の加配はせず通常業務を継続することができた。しかしながら、他法人と比較すると休日数はまだまだ少なく、より増やす方向で検討する必要がある。
 - (2) 職員の負担を考慮しつつ各事業所の実態に合うように職員の勤務時間・勤務シフトを変更した。当初は職員からの苦情や反対の声が聞かれたが、現在では軌道に乗って運用されている。
- 2) 給与関係規程類の改定
 - (1) 基本給表を改定した。基本給額の昇給幅を細分化するとともに目安となる昇給基準を明文化し、より適正な処遇が可能となるようにした。
 - (2) 期末勤勉手当（賞与）支給率を従来の 5.3 ヶ月から 4.5 ヶ月に変更し、差額分以上の金額を毎月の給与に還元した。これにより、求人の際に提示できる給与月額が改善し、対外的な印象が良くなった。

3) 職員配置の適正化

- (1) 毎月各事業所ごとに、勤務実績に基づいた「勤務形態一覧表」を作成し、行政が定めた人員配置基準が充足できているかを確認した。年度途中で生活支援員が数名離職するなど人員に変更はあったが、基準を満たす配置はできた。ただ、適材適所の配置という点では改善の余地がある。
- (2) 年度当初に障害者支援施設あすかの家で栄養士と調理員に欠員が出て、補充に数カ月以上かかったため、給食業務に少なからず影響が出てしまった。現在は概ね従前の状態に戻っている。

4) 予算管理・決算業務・通常経理業務の確実な遂行

- (1) 各事業所への費用計上を適正に行うよう努めたが、事業所間按分の方法などを今後検討する必要がある。
- (2) 適正な予算管理を行うよう努めたが、計画的・戦略的な運用はほとんどできておらず、今後努力したい。
- (3) 業務の合理化と省力化に関しては、現在大きな問題は抱えていないものの昨年度から大きな進展はなく、不十分であった。
- (4) 生活介護事業所あすか事務所棟の建設は、前年度に神戸やまぶき財団の助成を受け、令和5年8月に予定通り完成した。建設費用は物価高騰の折ではあったが、想定の範囲内であった。現在、1階は利用者の食堂、2階は職員の事務所として、有効に活用できている。

発注先・交付団体名	金額	摘要
八幡建設(株)	39,602,200円	建設費用一式
河原建築設計事務所	3,287,700円	設計管理料一式
神戸やまぶき財団	△8,000,000円	新築・増改築費用に対する助成
差引(法人負担分)	34,889,900円	

- (5) 南五反田に建設を検討していた「多機能型事業所あすか(仮称)」については、建設費用が予想以上に高額であること、必要な職員数を確保できる見通しが立たない等の事情があり、計画を見直すこととなった。

5) 法人が存続成長するための利益確保

- (1) 法人全体の障害福祉サービス等事業収益は、前年度比4.7%増加した。「障害者支援施設あすかの家」・「グループホームちやのきのいえ」は、定員を満たしており稼働率も上昇したが、「生活介護事業所あすか」は、長期欠席者が数名いた影響で稼働率が下がり、「就労継続支援B型事業所あすか」の定員割れも依然として続いている。今後は特に「就労継続支

援B型事業所あすか」の稼働率改善が課題である。特別支援学校の実習生受入れに積極的に協力するなど、利用者獲得を図っていききたい。

- (2) 自立支援給付費請求事務においては、誤った請求をしないよう細心の注意を払い、概ね正確に実行できた。一方で、新たな加算を算定できる体制を整えることはできなかった。今後一層努力したい。
- (3) 全費用の7割程度を占める人件費については、法人全体で3.5%上昇した。職員の待遇改善・人材確保の観点から考えると、ある程度はやむを得ないが、不必要な費用の増加がないよう引き続き注視する。
- (4) 自治体や各種団体等の補助金・助成金については、可能な限り申請を行い、ある程度は受給することができた。他の業務との兼ね合いもあるが、今後も情報収集を怠らず、受給できる機会を逃さないように努める。

交付団体	交付金額	摘要
兵庫県	963,000円	障害者施設光熱水費等高騰対策一時支援金(一次)
兵庫県	974,000円	障害者施設光熱水費等高騰対策一時支援金(二次)
兵庫県	2,041,000円	障害福祉サービス等事業者サービス継続支援事業補助金
太子町	1,700,000円	福祉施設等物価高騰対策支援金
太子町商工会	200,000円	物価高騰対策支援金
ウイズ in 西はりま	56,000円	厨房用冷蔵庫補助金(就Bあすか)
合計	5,934,000円	※交付金額は今年度の全事業所合計額

10. 障害者支援施設あすかの家

令和5年度は虐待事案が発生しました。今回の虐待事案の発生によって、当該利用者様およびそのご家族はもちろん、その他の利用者様、関係の皆様方に大きな不安を与えてしまい、これまでの期待を裏切るような事態を招いてしまいました。法人としての責任を重く受け止め、再発防止に真摯に取り組んで参ります。

行政による指導を受け、再発防止に向けた原因検証を行い、事業所内での虐待防止研修や意識調査、虐待防止指針等の策定を行いました。その中で障害の理解や支援の考え方に関して、説明・指導・研修等がしっかりと行えていなかったこと、また職員からの相談体制に関する課題があったことが浮き彫りになっています。「権利擁護」の視点を大切に、職員一人ひとりが利用者の人生に大きく影響を与えているのだというプライドを持って支援していけるよう日々のミー

ティングや支援会議で話し合い、利用者の幸せを追究していくことができる組織作りが必要です。

事故報告も多くありましたが、その原因の多くが、利用者の把握が十分にできていなかったことによるものでした。これは社会福祉事業従事者として大いに反省し、対策を講じていかなければいけません。今一度利用者の安心安全の暮らしの大切さを見つめ直し、利用者把握の徹底に力を入れていきます。

利用者の平均年齢が上がり、皆が同じ活動をするということが難しいという課題に対して対応することができませんでした。日中活動を整備し、利用者一人ひとりの年齢や障害特性に合わせた活動が提供できるように考えていく必要があります。

令和5年度も第22回となるあすかの家まつりを開催することができました。多くの地域の方に参加して頂き、改めて地域の方に支えられていると実感させられました。これからも地域に可愛がっていただける存在を目指していきます。

1) 基本方針

「家庭的な暮らしの中で一人ひとりが大切にされ、笑顔あふれる生活を実現します」

天気の良い日には布団を天日干ししたり、洗濯物を皆で取り入れ畳んだり、温かい家庭的な雰囲気を作り出すことで利用者に関想的で安心して頂ける環境づくりを目指してきました。

安心かつ安全な暮らしの実現を目標に掲げましたが、怪我等の事故報告がありました。事故原因の多くが、支援者の目が行き届いていないことに起因する「利用者把握」の不十分さによるものでした。事故を報告で済ませるのではなく、しっかり分析し対応することで、事故をゼロにしていきます。

冒頭の通り、虐待事案が発生しました。「権利擁護」の視点を大切にして支援するとともに、障害についてしっかり理解していく課題が浮き彫りになりました。

利用者一人ひとりを大切に思い、理解し、年齢や障害特性に合わせた活動ができるようにしていくことで、利用者も支援者もともに楽しみ、笑顔があふれる生活につなげていきます。

2) 提供サービス

＜生活介護＞ 定員：40名

特別支援学校から1名が入所されました。

令和6年度も特別支援学校から1名入所されることが決定しています。

月	延利用者数	延定員数	利用率	1日平均
4月	746名	880名	84.8%	33.9名
5月	754名	920名	82.0%	32.8名
6月	746名	880名	84.8%	33.9名
7月	781名	920名	84.9%	33.9名
8月	779名	920名	84.7%	33.9名
9月	745名	880名	84.6%	33.9名
10月	782名	920名	85.0%	34.0名
11月	745名	880名	84.7%	33.9名
12月	780名	920名	84.8%	33.9名
1月	759名	920名	82.5%	33.0名
2月	677名	800名	84.6%	32.2名
3月	799名	920名	86.8%	34.7名
合計	9,093名	10,760名	84.5%	33.7名

<施設入所支援> 定員：30名

月	延利用者数	延定員数	利用率	1日平均
4月	886名	900名	98.4%	29.5名
5月	884名	930名	95.0%	28.5名
6月	890名	900名	98.9%	29.7名
7月	921名	930名	99.0%	29.7名
8月	909名	930名	97.7%	29.3名
9月	893名	900名	99.2%	29.7名
10月	923名	930名	99.2%	29.7名
11月	893名	900名	99.2%	29.7名
12月	905名	930名	97.3%	29.1名
1月	892名	930名	95.9%	28.8名
2月	838名	870名	96.3%	28.8名
3月	924名	930名	99.4%	29.8名
合計	10,758名	10,980名	98.0%	29.4名

<宿泊短期> 定員：3名

月	延利用者数	延定員数	利用率	1日平均
4月	43名	90名	48.8%	1.4名
5月	67名	93名	72.0%	2.1名

6月	54名	90名	60.0%	1.8名
7月	48名	93名	51.6%	1.5名
8月	48名	93名	51.6%	1.5名
9月	56名	90名	62.2%	1.9名
10月	57名	93名	61.3%	1.8名
11月	63名	90名	70.0%	2.1名
12月	43名	93名	46.2%	1.4名
1月	47名	93名	50.5%	1.5名
2月	44名	87名	50.6%	1.5名
3月	51名	93名	54.8%	1.6名
合計	621名	1,098名	56.6%	1.7名

<日中短期> 定員：4名

月	延利用者数	延定員数	利用率	1日平均
4月	94名	120名	78.3%	3.1名
5月	91名	124名	73.4%	2.9名
6月	96名	120名	80.0%	3.2名
7月	96名	124名	77.4%	3.1名
8月	84名	124名	67.7%	2.7名
9月	99名	120名	82.5%	3.3名
10月	94名	124名	75.8%	3.0名
11月	92名	120名	76.7%	3.0名
12月	59名	124名	47.6%	1.9名
1月	64名	124名	51.6%	2.0名
2月	70名	116名	60.3%	2.4名
3月	104名	124名	83.9%	3.6名
合計	1,043名	1,464名	71.2%	2.8名

振り返り

1) 支援の質の向上

一人ひとりが大切にされていると感じることができ、我が家のように落ち着いて過ごすことのできる温かい支援を大切にしました。毎日入浴したり、天日に布団を干したり、身だしなみをきちんと整えたり、ノーマルで当たり前な暮らしが当たり前にできるように今後も継続していきます。

利用者の高齢化は引き続き避けては通れない課題です。食事や入浴など生活全般で細心の注意を払うとともに、支援員が介護技術の力をつける事で、利用者の安心・安全を提供していけるようにします。介護技術の習得を早急に行っていく必要があります。

<事故報告>

月	日 時	対 象 者	原 因
4 月	3 日	男性	他利用者とのトラブル
	4 日	男性	ケガ
	6 日	男性	ケガ
	6 日	女性	転倒
	8 日	女性	誤嚥
	13 日	男性	誤飲
	17 日	公用車	車両事故
5 月	4 日	女性	他利用者とのトラブル
	21 日	男性	他利用者とのトラブル
6 月	8 日	女性	転倒
	16 日	女性	転倒
7 月	28 日	男性	転倒
	31 日	女性	服薬重複
8 月	11 日	男性	誤飲
9 月	8 日	女性	誤嚥
	5 日	男性	警報装置誤作動
	21 日	男性	他利用者とのトラブル
10 月	29 日	女性	他利用者とのトラブル
11 月	2 日	女性	他利用者とのトラブル
	2 日	男性	誤飲
	6 日	女性	他利用者とのトラブル
	11 日	男性	服薬忘れ
	15 日	男性	他利用者とのトラブル
	20 日	公用車	車両事故
	30 日	女性	他利用者とのトラブル
12 月	14 日	男性	誤飲
	14 日	男性	他利用者とのトラブル
	26 日	女性	他利用者とのトラブル

1月	20日	男性	他利用者とのトラブル
	23日	男性	やけど
2月	4日	男性	トラブル
3月	13日	男性	他利用者とのトラブル
	19日	男性	転倒

2) 人材育成・人材定着

オンライン研修に加えて、外部の研修が実施されるようになり、研修の機会が増えています。新人・中堅・リーダー層など各階層が抱える問題や課題に合わせて学ぶことができるようになっていきます。もっとこれらの研修を有効活用できるようにスケジュールを組み立て、支援者全員がレベルアップしていける機会を作っていく必要があります。

研修で学んだことを報告会などで、他の職員に伝えることができませんでした。研修委員が、外部研修への参加の働きかけに加え、内部研修の開催を積極的に行っていく必要があります。法人全体で学ぶ風土を作り、専門的な知識を身につけ、支援の質の向上を図っていきます。

またブランディングを活用する事でホームページや SNS に広く発信していききました。外部を意識して自分たちの組織・仕事を見つめる事で、法人が目指す方向を意識する事ができました。職員全体に経営理念が浸透し、自分の仕事にもっと誇りが持て、風通しが良く、働き甲斐のある職場作りを目指していきます。

<施設外研修>

日 時	内 容	場 所	参加者	
4月	3日	発達障害の理解と支援	太子町役場 3F	男性 2名 女性 3名
	27日	ケアする人の感性トレーニング	揖保川病院	男性 1名 女性 1名
6月	20・21日	喀痰吸引研修	有馬温泉 HP	男性 1名
	22日	喀痰吸引研修	西宮タムニカイ HP	男性 1名
7月	25日	喀痰吸引研修	西宮タムニカイ HP	女性 1名
	26日	喀痰吸引研修	西宮タムニカイ HP	男性 1名
8月	6日	「人権文化をすすめる町民運動」記念大会	丸尾建築 あすかホール	男性 1名

	9日	自閉症支援の枠組みを学ぶ アセスメント「何を理解するか」	姫路市 総合福祉会館 5F	女性 1名
	20日	親なきあと講演会	アクリエひめじ 中会議室	男性 1名
	23日	ハラスメント防止研修 個別支援計画の作成について	BIZ SPACE himeji	男性 1名
9月	21・ 22日	兵庫県相談支援従事者初任者 研修	総合リハビリテー ションセンター 福祉のまちづくり 研修所	女性 1名
	30日	コミュニケーション支援研修	オンライン研修	男性 1名
10月	4日	障害者と福祉的就労と日中活 動サービスの支援のあり方	オンライン研修	女性 1名
10/ 11月	31日 1日 2日	兵庫県相談支援従事者初任者 研修	総合リハビリテー ションセンター 福祉のまちづくり 研修所	女性 1名
11月	13日	通報訓練・模擬実施訓練	龍野保健所 2F 栄養指導室	女性 1名
	27日	ストレスマネジメント研修	兵庫県福祉人材 研修センター	女性 1名
	29日	自閉症支援の枠組みを学ぶ アセスメントに基づく支援の 組み立て方法	姫路市市民会館	女性 1名
12月	11日	ヤングケアラーについて	丸尾建築 あすかホール	女性 1名
	14日	福祉従事者中堅職員研修	兵庫県福祉人材 研修センター	女性 1名
	14日	兵庫県相談支援フォローアッ プ西播磨圏域研修会	龍野商工会議所 2F 会議所ホール	男性 1名 女性 2名
	15日	福祉専門職の視点	オンライン研修	女性 1名
1月	17日	障害者虐待防止法について 虐待発生メカニズム等につ いて	ZOOM による オンデマンド 研修	男性 3名 女性 1名
	16日	親子関係こそこじれやすい ～生きづらさの正体～	イーグレ姫路 4F	男性 2名
	21日	自閉症の子とともに生きて ～親亡き後を考える～	姫路市 総合福祉会館 5F	男性 2名

	30日	ハラスメント研修	太子町基幹相談 支援センター	男性2名 女性2名
2月	21日	災害時における食物アレルギー 対策	龍野保健所 3F 第4会議室	女性1名
	22日	自殺の現状と管内の自殺未遂 の状況	龍野庁舎 2F 第1会議室	男性1名 女性1名
3月	28日	障害者等虐待防止研修	太子町役場 行政棟 3F	男性4名 女性3名

<施設内研修>

日時		内容	場所	参加者
5月	16日	交通安全研修	あすかの家 食堂	全職員
6月	6日	喀痰吸引研修	あすかの家 多目的ホール	男性3名 女性1名
	16日 21日	虐待防止研修	あすかの家拠点 ちやのき拠点	全職員
7月	18日 21日	ハラスメント研修	あすかの家拠点 ちやのき拠点	全職員
7月 8月	19日 10日	新人研修	あすかの家 会議室	男性3名 女性4名
8月 11月	10日 14日	京極 WORKS ダンス & 講演会	ちやのき café	全職員
9月	13日 19日	交通安全研修	ちやのき拠点 あすかの家拠点	全職員
12月	25日	アンガーマネジメント研修	ちやのき café	男性4名 女性4名
3月	4日 7日	虐待防止研修	あすかの家 食堂	全職員

3) 生活支援

家庭的な暮らしを提供したいという思いから、朝は換気をして空気を入れ替え、布団や洗濯物は天日干しをし、気持ち良く毎日のスタートが切れるようにしています。洗濯物や布団を干すことが利用者の日課となっています。

日中は利用者を活動ごとに班分けし、担当支援者を付けることで、居室やり

ビングにこもるなど活動に参加できない利用者はほぼいなくなりました。日中活動の基本の作業にやりがいを持って参加できている利用者が増えました。しかしながら散歩やドライブが中心になり、土日の余暇と大差のない毎日を過ごされている方もいます。散歩の意味や目的を明確にしながらメリハリのある生活を提供していかなければなりません。その中で一人ひとりに合わせた活動、特に高齢の利用者の活動を充実させていきたいと考えています。

4) 作業

令和 5 年度は生活の場から活動の場へ移動して利用者一人ひとりが日中活動に参加し、活躍できるよう取り組んできました。作業に参加できる利用者が増え、生活リズムが整ってきたことは評価できます。その中で支援者の体制や受注作業が 2 種類と少ない作業の中で、少人数での活動が難しく作業空間が手狭となっていました。感覚の特性や対人関係に配慮するなどの作業環境づくりが今後の課題です。

20 年以上に渡って作業を頂き続けてきたステップル作業が打ち切りになりました。支援者の製品確認不足から度重なるミスを出し、企業様に多大なご迷惑をおかけすることになったことが原因です。作業を福祉施設の取り組みの一つと軽く捉えず、任せられたことに対して責任を持って丁寧にできるように取り組んでいかなければなりません。今回問題となった確認の仕方なども含めてマニュアルづくりを行い、そのマニュアルが絵にかいた餅とならないよう、報告・連絡・相談を徹底していきます。

5) 外出支援

マスクを外しての外出ができるようになったことで、施設外行事や買い物など外出の機会が増えました。徒歩圏内にコンビニ等の商業施設があることで毎週週末に買い物に出かけることができます。大きな楽しみの一つである外出を通して、利用者ひとりひとりが楽しく、充実した生活を送れるようになりました。支援者も利用者の思いに応えようと様々な案を出し、喜んで頂けるように計画を立てています。買い物では、地域のお店を利用することにより、声をかけて頂けることが多くなりました。これからも地域の方との結びつきに感謝し、大切にしていきます。

<毎月の行事>

月	テーマ	場 所	費 用
4 月	観桜会	バーベキュー、サーカス カラオケ	121,485 円
5 月	バーベキュー	あすかの家 グランド	132,534 円

6月	あすか会運動会	あすかホール 中ホール	114,119円
7月	1泊外出	神戸しあわせの村 相生市立羅漢の里	325,469円
8月	そうめん流し	あすかの家 食堂	49,173円
9月	フリープラン	映画、カラオケ、赤穂海浜公園 国見の森公園	131,923円
10月	あすかの家まつり	あすかの家 グランド	収入 88,700円 支出 289,897円
11月	食事会	サイゼリア、ちやのき café くら寿司、すくね茶屋	80,555円
12月	クリスマス会	あすかの家 食堂	115,239円
	忘年会	あすかの家 食堂	83,217円
1月	新年会	あすかの家 食堂	18,801円
2月	節分	あすかの家 各フロア	40,089円
3月	フリープラン	播磨中央公園、姫路市立水族館、増井山瑞巖寺内梅林 等	131,177円

6) アートプロジェクト

(1) アールブリュット

アールブリュット展が開催できませんでした。作品作りの難しさを実感した一年でした。もう一度基本に立ち返り、アールブリュットについて勉強したり情報を集めたりアールブリュットにアンテナを張っていきます。普段から絵を描く時間を作り、作品を集めていくことが大切です。その絵をどう生かすかは展示する支援者の力が必要です。利用者の活躍する場を作ることで、広く皆様に知って頂けるようにします。

(2) 外部講師によるアートプロジェクト

- ①ヨガ 講師：AYAさん
- ②アフリカ音楽 講師：ミロゴ・ベノワさん
- ③アートの時間 講師：京極 WORKS

今年も「動のアート」としてプロの講師を招き、本物を体感しました。ヨガでは普段無意識にしている呼吸や自分の身体を意識したり、音楽ワークショップではアフリカのリズムに合わせてありのままを表現したり、普段できない体験ができ、ベノワさんと新年会で餅つきを一緒に楽しんだり、利用者太鼓チームがイベントで共演させて頂いたりと活動の幅が広がっています。京極さんに

は定例のワークショップに加えて、「ケアダンスのすすめ」というテーマで講演をして頂きました。ケアをする人・ケアを必要としている人との協働の中で呼吸を合わせることの大切さを学び、支援の質を高めるための学びを深めました。

7) 給食

基本方針

「利用者の個性を特別な食材として、隠し味を（愛情）で調理します」

自施設での給食提供という利点から、直に利用者の声を聞きながら、食事提供を実施できたと思います。

基本方針の通り、食事の時間を楽しみにされていることを調理員も日々感じながら調理し、なるべく温かい物は温かく、冷たい物は冷たいうちに意識して提供させていただきました。

行事ではいつもと違う時間の流れでの調理や提供になりましたが、お互いにサポート、声かけを行い取り組んでいたと思います。

一方で、支援員との伝達が不十分な箇所もあったので、改善していけたらと思います。

食事では利用者の食事形態変更も多く、支援部や看護職員との連携・伝達は必須であると思いました。

引き続き、安心してより楽しみにしていただけるよう、美味しい食事を提供することを心掛けていきたいと思います。

11. 相談支援事業所あすかの家

基本方針

「地域に溶け込み、気軽に声を掛けられるような存在となり、敷居の低い相談員として地域の困りごとを解決していきます」

1) 相談支援部

(1) 指定特定相談実績

月	計画	モニタリング	計画費
4月	17件	42件	873,590円
5月	9件	34件	626,430円

6月	21件	25件	705,720円
7月	19件	32件	767,230円
8月	21件	65件	1,263,720円
9月	8件	39件	683,610円
10月	17件	27件	664,340円
11月	27件	37件	969,540円
12月	18件	32件	750,660円
1月	7件	42件	707,890円
2月	25件	33件	877,600円
3月	29件	36件	991,730円
計	218件	444件	9,882,060円
前年度比	+ 14件	± 0件	+ 307,980円

(2) 重点的な取り組み

①スピード感のある相談体制で安心感を提供

今年度は新規利用者33名の相談を受け付けました。中には緊急性を要すことや、利用者、事業所のタイミングに配慮するケースもあり、早急にサービス利用に繋げて対応しています。また、急ぎだからといって書類作成に対する意識を低下させず、高い状態を維持し期日を守りました。就労継続支援B型事業所あすかへも3名の利用者を紹介し、事業所間の連携を丁寧に行い、充実した支援を行うことで安定して利用されています。利用者からの困りごとに対しても、早急に話し合いの場を設けて解決に向けて取り組んできました。

②基幹相談支援センターとの連携

今年度は2回の自立支援協議会全大会と2回の相談支援部会を開き、情報共有を行いました。太子町福祉計画の確認や啓発活動を行うことで、行政との連携を強化し、法人の存在をアピールできました。相談支援事業所としては引きこもりや虐待案件には基幹相談支援センターと伴走しながら対応してきました。あすかの家で対応できること、基幹の介入が必要なことを明確にしながら、協力体制を構築してきました。それにより利用者の生活が大幅に改善され、地域での生活を続けることができています。しかし、生活困窮者の対応や触法障害者の受け入れなど、地域での課題は多く、重層的支援体制の構築にはまだ時間がかかりそうであり、引き続き仕組み作りをしていきたいと思えます。

③相談支援専門員としてのモラル向上

相談支援専門員はアウトリーチを行い、地域の方や他事業所との接点が多い立場であり、あすか会の顔として法人を代表していることを意識した言動を行いました。私たち相談支援専門員は毎日、顔を合わせる仲なので慣れあいにならないように丁寧な言葉遣いを心掛け、お互いを尊重しながら業務にあたりました。また、定期的に研修にも参加して、相談支援業務に活かせるように学びの機会を持ちました。

日 時	研 修 名	参加人数
R5. 4. 3	太子町自閉症啓発デイ研修会	3名
R5. 8～11. 2	相談支援専門員初任者研修	1名
R5. 10. 18	第2回関西就労フォーラム ソーシャルインクルージョン ～変わり続ける社会と共に～	1名
R5. 12. 14	障害者差別解消法の解説と事業者としての対応	3名
R5. 12. 23	生活困窮者相談会兼食料支援	1名
R6. 1. 16、 1. 23	親子関係に悩みを抱えている人へ ～親との関係を乗り越えた講師に学ぶ～	3名
R6. 1. 30	カスタマーハラスメント研修	3名
R6. 2. 15	ケアマネ連絡会 災害時緊急時に備えるケアマネジメント	2名
R6. 2. 22	令和5年度 自殺未遂者支援連絡会 「自殺未遂者の対応と連携～地域連携の立場から～」	2名
R6. 2. 22	ウエルシアオアシス(株)説明会	1名
R6. 3. 6	令和5年度 精神障害者地域移行・地域定着支援事業 連絡会議 ① 揖保川病院における退院支援の取り組み ② 地域定着支援事業を利用したケースの紹介	2名
R6. 3. 22	兵庫県相談支援を“つなぐ”研修 高齢障害者への継続した支援の展開を目指して	1名
R6. 3. 28	障害者虐待防止研修	3名

2) 地活部（地域活動支援センター）

(1) 利用者の定着

毎月の地活会議で障害に対する勉強会を実施し、障害や病気に対する理解を深めていきました。利用者の言動から、言葉や行動そのものにとらわれ

ずその裏にある本人の思いを汲み取り対応するようにしました。しかし、R5.11月頃から入院や体調不良、介護保険との併用など利用者の来所は安定せず、月平均が3人程度の時期が続きました。

(2) ニーズに沿った日課の提供

毎週木曜日にボランティアの方に参加していただき、編み物教室、カリンバ教室、園芸指導などを行いました。教室に参加することを目的に来所される利用者さんもおられ、楽しみのひとつになっています。編み物で認知症マップを作成し、高齢者施設に寄付する機会をいただき新たな交流も生まれました。また、ボランティアの方が事業所に入っていただくことで事業の広報や活性化になっています。

(3) 在宅利用者の余暇の充実

地域活動支援センターを活用したイベントの実施はできませんでした。地域住民にも事業所内に入っていただきたいが、周知の不十分さや受け入れやすい雰囲気づくりには課題がありました。誰もが気軽に入ってもらえるような取り組みや、日ごろから地域の方とのかかわりや、地域に出た活動を増やすようにしていきたいです。

令和5年度 地域活動支援センターあすかの家利用実績・活動内容

月	稼働日	延利用人数	1日平均 (前年度比)	活動内容
4月	22日	95人	4.31人(+0.49)	軽作業、花見等
5月	23日	99人	4.30人(+0.26)	軽作業、園芸等
6月	21日	118人	5.62人(+2.22)	軽作業、折り紙等
7月	23日	98人	4.26人(+0.61)	軽作業、七夕会等
8月	22日	95人	4.32人(+0.72)	軽作業、水族館等
9月	20日	91人	4.55人(+0.83)	軽作業、創作活動等
10月	18日	82人	4.40人(+0.15)	軽作業、アート活動等
11月	20日	87人	5.04人(△0.69)	軽作業、園芸等
12月	22日	80人	3.63人(△1.14)	軽作業、クリスマス会等
1月	19日	72人	3.79人(△0.76)	軽作業、正月行事
2月	20日	64人	3.20人(△0.80)	軽作業、節分行事
3月	21日	56人	2.66人(△1.74)	軽作業、桃の節句

3) 移動支援部

ヘルパーの確保ができずに運用することができませんでした。引き続き、人員募集と利用者ニーズを取りまとめるようにしていきます。

【令和5年度 振り返り】

今年度も新規相談の問い合わせは多く、太子町民の方については即応性を心掛けて対応してきました。しかし、町外（姫路市、たつの市、宍粟市）住民からの問い合わせも多く、当事業所では対応ができずにお断りすることも多くありました。相談支援専門員の不足が身に染み、他市町の出来事ではあるが、相談件数が増えている現状を考えると他人事で済まされないと感じる一年でした。相談支援事業所あすかの家としては、太子町民は一人残さずに対応してきたと自負しますが、とりあえずサービスに繋げるだけの計画相談になっている傾向にあります。毎月の計画作成とモニタリングの基本業務に追われる中で、地域課題の発掘や解決にまで手が回っていないのが現状です。あすか会の存在意義を改めて見直し、原点に立ち返る時間も必要だと感じています。今年度は相談支援専門員の異動がありましたが、スムーズに引継ぎを行い、利用者支援に支障が出ないように努めました。今後も異動等に対応ができるように、業務のマニュアル化を行い、次世代へ繋いでいく取り組みを行ってまいります。

地域活動支援センターも開所から約3年を迎えました。数名の利用者は安定されていますが、入院や体調不良等で安定した利用ができない方も多い一年でした。また来たいと思えるような雰囲気づくりと充実した活動の提供は引き続き課題として取り組んでいきます。障害の有無、老若男女を問わずに人が集まる場所として地域の「居場所」となるように努力していきます。

12. 生活介護事業所あすか

1) 基本方針

「一人ひとりの立場に立ち、本人の意思が尊重される温かい支援を通して将来に繋がる支援をします」

2) 利用者数

月	延利用者数	延定員数	利用率	一日平均
4月	534人	550人	97.1%	24.27人
5月	542人	575人	94.3%	23.57人
6月	520人	550人	94.5%	23.64人
7月	558人	575人	97.0%	24.26人
8月	554人	575人	96.3%	24.09人
9月	530人	550人	96.4%	24.09人
10月	555人	575人	96.5%	24.13人
11月	492人	550人	89.5%	22.36人
12月	420人	500人	84.0%	21.00人
1月	500人	575人	87.0%	21.74人
2月	492人	525人	93.7%	23.43人
3月	543人	575人	94.4%	23.61人
合計	6,240人	6,675人	93.5%	23.35人
特記	【定員数】 25名 【在籍数】 26名（令和6年3月31日現在） ※令和5年度 退所者1名			

3) 作業

①プラグトレイ作業（秀栄株式会社）：バーコードシールの貼付

②神戸マッチ作業（神戸マッチ株式会社）：マッチ箱の組み立て

出来るだけ多くの利用者が作業に参加し、その人に合った取り組みが評価され認められるように取り組んだ。また、利用者が構造的に分かりやすい作業環境を目指して作業空間や作業道具などを改善した。

また、全ての職員が同じ手順で利用者に支援できるように、作業手順に関するマニュアルの作成を実施したが、完成には至っていないため次年度中に完成を目指す。

今年度のクリスマス会では、利用者の方が作業に取り組んだ成果を実感していただくため、作業工賃を行事の財源の一部とした。次年度は利用者にもっと分かりやすい形で工賃の使い方を提示できればと考える。

《作業収入》

月	①プラグトレイ作業	②神戸マッチ作業
4月	10,500円	6,750円
5月	4,920円	6,750円
6月	13,200円	4,500円
7月	11,760円	11,250円
8月	10,800円	9,000円
9月	780円	18,000円
10月	6,600円	29,250円
11月	2,400円	20,250円
12月	1,200円	18,000円
1月	10,800円	27,000円
2月	7,800円	27,000円
3月	3,000円	20,250円
合計	83,760円	198,000円

4) 運 動

太子町内や姫路市内の公園などを中心に、登山やウォーキングなどの運動に取り組んだ。ウォーキングは事業所近隣の公道を歩くほか、書写中央公園などの公園を利用する事で、安全の確保や状況に応じた運動量の調整を行うことが出来た。その他、室内でのリズム体操や町民体育館を利用しバランスボールなどを使った運動を行った。

利用者と職員が共に汗をかき心身ともに健康的な日々を送ることで自宅での落ち着いた生活にも繋がった。

次年度も基本的には同様の活動となるが、夏場の暑さ対策などが課題として考えられ、夏場を実施できる運動を取り入れていくことが必要となる。

	内 容
①	ラジオ体操/リズム体操
②	ウォーキング
③	山登り
④	体育館での運動※バランスボールなど

5) 余暇活動

1 週間作業などの活動を頑張った後の楽しみとして、週末に気分を変えて、それぞれの利用者が楽しめる活動を提供した。本年度は室内での活動に加えて、近隣のカラオケ店やスポーツ施設を利用することが出来、余暇活動を通して地域とのつながりを持つ事もできた。次年度には、活動の場所や種類を増やし、さらに地域とのつながりを持てるようにしたい。

	内 容
①	ドライブ
②	お菓子作り
③	テレビゲーム
④	カラオケ（室内）
⑤	カラオケ（カラオケ店）
⑥	卓球（青山スポーツガーデン）
⑦	ティータイム

6) 医務

1 日 3 回の検温や保護者との情報共有など、利用者の健康状態の把握にも努めたが、本年度は、利用者や職員ともに新型コロナやインフルエンザ罹患者が複数あり、感染拡大防止のための臨時休園も実施した。新型コロナが 5 類感染症へ移行したとはいえ、インフルエンザと同様に事業所内の消毒、発熱者への対応など感染拡大を防止する対応は昨年度と同様に行った。

また、例年実施している健康診断や新型コロナ、インフルエンザの予防接種も実施した。

7) 地域活動

「社会とのつながり」をテーマに地域貢献につながる取り組みを行うことで、障害に対する啓発や地域の住民と利用者との交流に繋げ、地域に根ざした開かれた施設を目指す計画を立てて実行した。

活 動	①川島地区の花壇の苗の植え替え、草抜き、水やりなどの管理
	②あすか周辺のごみ拾いなどの清掃活動

8) 職員の質の向上

事業所内での研修を企画し実施した。研修のテーマは職員への事前のアンケート

ート調査により、職員が関心を持っているテーマを選択した。また、研修の組み立てや進行を職員が担当し、担当者自身にもより深い学びの場となった。

加えて、法人内で企画された研修や外部研修にも参加し職員の質の向上へつなげた。

支援部会議では事業所の実情に即した内容の議題を設定し、問題点と対応策を共有するとともに職員の対応する力を高めた。

(1) 支援部会議

日 時		場 所	議 題	参加者
4月4日	16:00 ～ 18:00	第3 作業室	<ol style="list-style-type: none"> 1. 月予定 2. 今年度の担当について 3. 当月のモニタリング 当月の支援計画作成 4. 4月行事の振り返り 5. ケース会議（3名） 6. 各活動班より 7. 5月行事について 8. 送迎について 9. 事務所棟新設について 10. 医務より 11. 今後の朝礼と週間予定について 12. あすかの由来と目的 	11名
5月19日	16:00 ～ 17:30	第3 作業室	<ol style="list-style-type: none"> 1. 月予定 2. 当月のモニタリング 当月の支援計画作成 3. ケース会議（2名） 4. 各委員会より 5. 6月行事 6. 送迎について 7. 事務所棟新設工事 8. 医務より 9. ばんたん親善運動会 10. のじぎくスポーツ大会 	13名
6月14日	16:00 ～ 17:30	第3 作業室	<ol style="list-style-type: none"> 1. 月予定 2. 当月のモニタリング 当月の支援計画作成 3. 6月行事について 4. 7月行事について 5. ケース会議（2名） 6. 職務分掌について 7. 各委員会より 8. 事故報告書 9. 利用者アセスメントについて 	12名

7月26日	16:00 ～ 17:30	第1 作業室	<ol style="list-style-type: none"> 1. 月予定 2. 当月のモニタリング 当月の支援計画作成 3. 8月行事について 4. 9月行事について 5. 各委員会より 6. 事業所内研修について 7. あすかの家まつり 8. ヒヤリハット報告 9. ケース会議（1名） 	11名
8月28日	16:00 ～ 17:30	事務所	<ol style="list-style-type: none"> 1. 月予定 2. 当月のモニタリング 当月の支援計画作成 3. 職員研修旅行について 4. 8月行事振り返り 5. 9月行事について 6. 事務所棟について 7. 研修報告 8. 事業所内研修 9. ケース会議（1名） 	13名
9月20日	16:00 ～ 17:30	第3 作業室	<ol style="list-style-type: none"> 1. 月予定について 2. 当月のモニタリング 当月の支援計画作成 3. 職員の異動について 4. 虐待について 5. ケース会議（1名） 6. あすかの家まつり 7. 事務所棟について 8. 食堂について 	13名
10月31日	16:00 ～ 17:30	事務所	<ol style="list-style-type: none"> 1. 月予定 2. 当月のモニタリング 当月の支援計画作成 3. ケース会議（2名） 4. 業務中の職員の動き 5. 11月行事について 6. 12月行事について 	8名
11月8日	16:00 ～ 17:30	事務所	<ol style="list-style-type: none"> 1. 月予定 2. 当月のモニタリング 当月の支援計画作成 3. ケース会議 	8名
12月18日	16:00 ～ 17:30	事務所	<ol style="list-style-type: none"> 1. 月予定 2. 当月のモニタリング 当月の支援計画作成 3. 12月行事について 4. 事業所内研修について 5. 特別支援学校実習 	11名

			6. 事故・ヒヤリハット報告 7. 研修報告 8. 医務より	
1月15日	16:00 ～ 18:00	事務所	1. 月予定 2. 当月のモニタリング 当月の支援計画作成 3. ケース会議（1名） 4. 2月行事について 5. 3月行事について 6. 各担当者会議より 7. 特別支援学校実習 8. 事故・ヒヤリハット報告 9. 医務より	9名
2月20日	16:15 ～ 18:00	食堂	1. 月予定 2. 当月のモニタリング 当月の支援計画作成 3. 3月行事について 4. 4月行事について 5. 健康診断について 6. 事故・ヒヤリハット報告 7. ケース会議（1名）	10名
3月27日	16:00 ～ 17:20	第3 作業室	1. 月予定 2. 当月のモニタリング 当月の支援計画作成 3. 次年度ケース担当他 4. 4月行事について 5. 5月行事について 6. 事故・ヒヤリハット報告 7. 次年度職務分掌	10名

(2) 研 修
(外部研修)

日 時		内 容	場 所	参加者
4月	3日	発達障害者研修	太子町役場	1名
8月	9日	自閉症の支援の枠組みを学ぶ	姫路総合福祉会館	1名
	23日	ハラスメント・個別支援計画	BIZ SPACE HIMEJI	1名
10月	24日	アセスメント研修	姫路総合福祉会館	1名
2月	28日	障害者虐待対応力向上研修 A	オンデマンド	1名
3月	28日	虐待防止研修	太子町役場	1名

(内部研修)

日 時		内 容	場 所	参 加 者
6 月	14 日	てんかんについて	あすか	1 名
7 月	19 日	新人研修	あすか※	4 名
	21 日	ブランディング/ハラスメント研修	あすか	全職員
8 月	4 日	京極 WORKS 研修	あすか	全職員
	10 日	新人研修	あすかの家	4 名
	28 日	視覚支援について①	あすか	全職員
9 月	13 日	交通安全研修	あすか	全職員
11 月	18 日	視覚支援について②	あすか	全職員
12 月	25 日	アンガーマネジメント研修	ちやのき cafe	7 名
1 月	26 日	電話対応	あすか	全職員
2 月	13 日	虐待防止研修 ※不適切支援を減らす環境づくり	あすか	全職員
	14 日			
3 月	4 日	身体拘束について	あすかの家	全職員
	7 日			

9) 行 事

月に1回行事を企画し利用者に参加して頂いた。少人数で外出するフリープランを企画する前に自治会などの場を利用して、行き先や昼食の内容などの希望リサーチし、出来るだけ希望に添えるような形で参加していただいた。

5月のフリープランでは事前に行き先を2ヶ所設定して、ご家庭でどちらかを選んでいただき参加していただくような企画をしたが、希望が偏りうまくいかなかった。意思決定支援の観点からも選択する機会を増やすことは重要で、この経験を次年度につなげていきたい。

月	内 容	場 所	参加人数	費 用
4 月	観桜会	メモリアルパーク	利用者 24 名 職 員 12 名	33,107 円
5 月	新緑をテーマに少人数で外出	兵庫県立播磨中央公園	利用者 26 名 職員延べ 12 名	65,803 円
6 月	合同運動会	あすかホール	利用者 24 名 職 員 12 名	—
7 月	宿泊行事	グリーンステーション鹿ヶ壺	利用者 12 名 職員延べ 12 名	318,116 円

8月	夏まつり	生活介護事業所 あすか	利用者 25 名 職 員 12 名	34,355 円
9月	観月をテーマに外出	書写山 砥峰高原他	利用者 26 名 職員延べ 13 名	57,372 円
10月	あすかの家まつり	あすかの家	利用者自由参加 職 員 12 名	—
11月	秋を求めて外出	淡路島 神戸南京町他	利用者 25 名 職員延べ 13 名	76,618 円
12月	クリスマス会	生活介護事業所 あすか	利用者 23 名 職 員 11 名	48,781 円
1月	新年をテーマに外出	姫路護国神社 かさがた温泉他	利用者 25 名 職員延べ 12 名	59,950 円
2月	節 分	生活介護事業所 あすか	利用者 28 名 職 員 10 名	31,236 円
3月	春を求めて外出	兵庫県立フラワ ーセンター 神戸王子動物園 他	利用者 25 名 職員延べ 12 名	75,677 円

10) 送迎

太子町内在住の方、あすかの家の利用者に対して送迎サービスを実施した。送迎サービスを利用していただいた方には、生活介護事業所あすかを、より便利に利用していただく事に繋がっている。

11) 事故報告

本年度は下の表の通りの事故報告があがった。事故報告書を作成するものの、検証された内容の共有と検証内容を実際の動きに落とし込む作業が十分ではなかった。

また、事故に至るまでにその因子を出来るだけ少なくするために、ヒヤリハット報告とその分析が必要だが、ヒヤリハットの報告も十分出来ていなかった為、次年度はヒヤリハット報告を充実させて内容の検証と情報の共有を充実させ事故防止につなげたい。

日 時		対象	事故種別
5月	9日	事業所備品	物損
	11日	公用車	車両事故（物損）
	13日	公用車	車両事故（物損）

	24日	利用者	他害
	26日	利用者	他害
	30日	利用者	自傷
8月	24日	利用者	他害
9月	19日	利用者	他害
	28日	利用者	誤飲
10月	11日	利用者	他害
11月	20日	公用車	車両事故（物損）
	29日	利用者	他害
1月	4日	利用者所持品	物損
	16日	利用者	転倒
2月	8日	利用者	自傷
	13日	公用車	車両事故（物損）
	20日	事業所備品	物損
	20日	利用者	他害
3月	12日	利用者	他害
特記	他害…8件 自傷…2件 物損…7件 転倒…1件 誤飲…1件 合計 19件		

13. ちやのきのいえ

1) 利用状況 《定員 10 人》

月	延利用者数	延定員数	利用率	一日平均
4月	269	300	89.7%	9.0
5月	263	310	84.8%	8.5
6月	299	300	99.7%	10.0
7月	307	310	99.0%	9.9
8月	291	310	93.9%	9.4
9月	296	300	98.7%	9.9
10月	305	310	98.4%	9.8
11月	298	300	99.3%	9.9
12月	297	310	95.8%	9.6
1月	269	310	86.8%	8.7
2月	258	290	89.0%	8.9
3月	307	310	99.0%	9.9
計	3,459人	3,660人	94.5%	9.5人

2) 重点項目

(1) 生活面

安心して暮らせるように温かくて優しい家庭的な生活を大事にし、笑顔の支援を支援を心がけました。そしてお誕生日会や季節のイベントなどを取り入れながら楽しみのある生活作りを行いました。

(2) 食事

太子町役場の朝市の野菜など旬の食材を使うようにしてバランスの取れた献立を考え、温かい物は温かく冷たい物は冷たいうちに提供できるようにしました。そして食材を柔らかくしたり一口サイズにしたりすることで食べやすいように工夫しました。また、誕生日食や行事食を準備して喜んでもらいました。

(3) 安全面

各居室においては清潔で安全な環境作りを行い、夜間巡視をすることで安全と安眠を確保しました。事故が起こりやすい場所での声かけや見守りを

行い、転倒や転落などの事故防止に努めました。備品の管理において、トイレトーパーの置き場所についてヒヤリとした事があり、事故が起こらないように備品の置き場所の見直しを行いました。

(4) 対人関係

食事の準備や後片付けをしたり、洗濯物を干したり、ちやのきち（ペットのうさぎ）のお世話をしたり、各自が得意な面を活かして協力し合って生活しました。

地域においては、あすかの家へ歩いて行く途中で顔を合わせる方々から声をかけていただいたり、畑で収穫した野菜をお裾分けしていただくこともあり、歩いて行くときの楽しみの一つになりました。また、ちやのきのいえの向かいの美容室を利用する利用者も3名に増えました。地域で生活する者として地域の中に溶け込んでいきたいと思えます。

(5) 自治会の活動

コロナの感染防止対策を行ったうえで、誕生日会やたこ焼きパーティーやおやつ作りなどを行い、みんなで楽しめるように工夫しました。

(6) 障害者支援施設あすかの家との連携

あすかの家の職員と情報を共有し、支援の統一化に努めました。

また、諸問題に対しては窓口を一本化することで情報が錯綜しないようにし、迅速に対応することで解決に繋げていきました。

3) 事故報告

日 時	場 所	対 象 者	事故の種類
9月19日	ちやのきのいえ	男性利用者	配薬忘れ
10月6日	ちやのきのいえ	男性利用者	配薬間違い
11月4日	ちやのきのいえ	女性利用者	配薬間違い

4) 支援部会議

日 時	議 題	参 加 者
4月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者について ・送迎について ・フリースペースについて ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・サビ管 ・支援員3名

5月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者について ・誤嚥対応について ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・サビ管 ・支援員4名 ・関看護職員
6月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者について ・洗濯について ・居室整理について ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・サビ管 ・支援員3名
7月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者について ・掃除について ・夏まつりについて ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・サビ管 ・支援員3名
8月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者について ・お盆の帰省について ・大掃除について ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・サビ管 ・支援員3名
11月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者について ・健康診断結果と服薬状況について ・夜間救急時の対応について ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・サビ管 ・支援員5名
12月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者について ・年末の帰省について ・大掃除について ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・サビ管 ・支援員4名
2月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者について ・セレナの使用について ・健康診断について ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・サビ管 ・支援員5名
3月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者について ・衣替えについて ・玄関ロールスクリーンについて ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・サビ管 ・支援員3名

5) 新型コロナウイルス感染報告

日時	状況	備考
1月29日	3名陽性確認	感染予防の為ちやのきのいえ内で過ごす
2月5日	静養終了	通常生活再開

6) 令和5年度 振り返り

今年度は5月に新型コロナウイルスの位置付けが5類に移行され、ようやくそれまでの日常生活が戻ってきたように感じました。イベントに参加したり、買い物や外食にも出かけやすくなりました。隣のちやのき café を貸し切ったのクリスマス会を楽しむ事もできました。今まで通りのメリハリのある生活ができるようになったことで皆が穏やかに過ごせているように感じました。今後も引き続き感染予防に取り組みながら、意思決定支援を通して楽しみのある生活づくりを行いたいと思います。

それから、6月には男性利用者が1名増えました。日中は就B あすかを利用されています。新しい環境に戸惑うこともあったと思いますが、徐々に慣れてきた様に見受けられます。ちやのきのいえで居心地良く過ごしてもらえるように支援していききたいと思います。

ちやのきのいえの課題は利用者の半数が70代と高齢なことです。日々の生活の中で心身の変化を感じる場面が増えてきました。特に食事に対する配慮が必要です。誤嚥や高齢者の食事についての研修を行ったり、吸引器も設置しました。今後もちやのきのいえで元気に過ごしてもらえるように、普段との違いを感じ取れるように利用者としっかり関わっていききたいと思います。そして利用者の健康や安全を守るための知識を身につけて支援に活かしていきたいと思います。

14. 就労継続支援B型事業所あすか

就労継続支援B型事業所あすかは、令和5年7月で丸4年を迎えました。

令和5年度は、利用者の増員と作業内容の充実を掲げていましたが、思うような結果はでませんでした。

軽作業では、単発ではあったものの、新たに大豆の選別作業に取り組む機会があり、利用者の新たな一面を見つけることができました。

また、地域のイベントに参加したり、ちやのき café の第2駐車場でちやのき

の夏まつりを開催するなど、地域の方々と交流することができました。

ちやのき café を活用し、地域の方々が利用できるように学習室として開放したり、LIVE やヨガ教室を行ったりなど、利用していただく機会が増えたと思います。

令和 6 年度も、利用者の増員、作業の充実、地域との交流を目標に掲げていきます。

1) 利用状況 《定員：15 人》

月	延利用者数	延定員	利用率	一日平均
4 月	120	330	36.4%	5.45
5 月	124	345	35.9%	5.39
6 月	145	330	43.9%	6.59
7 月	147	345	42.6%	6.39
8 月	147	345	42.6%	6.39
9 月	142	330	43.0%	6.45
10 月	147	345	42.6%	6.39
11 月	153	330	46.4%	6.95
12 月	154	345	44.6%	6.70
1 月	154	345	44.6%	6.70
2 月	142	315	45.1%	6.76
3 月	166	345	48.1%	7.22
合計	1,741 人	4,050 人	43.0%	6.45 人

2) 作業活動

①ちやのき Café（カフェ・弁当・菓子・地域イベント）収支

月	売上（円）	材料費（円）	収益（円）
4 月	786,540	334,214	452,326
5 月	889,440	345,861	543,579
6 月	852,120	319,591	532,529
7 月	681,170	255,874	425,296
8 月	619,460	238,212	381,248
9 月	547,120	240,052	307,068
10 月	552,010	224,544	327,466

11月	632,100	294,144	337,956
12月	518,920	194,927	323,993
1月	360,860	263,706	97,154
2月	549,530	178,447	371,083
3月	544,845	215,883	328,962
計	7,534,115	3,105,455	4,428,660

②その他作業売上

月	ますき（円）	除草作業（円）	豆選別作業（円）
4月	11,970	30,000	
5月	22,875	30,000	
6月	25,725	10,000	
7月	25,460		
8月	27,230	10,000	
9月	38,175	30,000	
10月	24,400	29,000	
11月	32,100		
12月	36,100	40,000	
1月	22,125		
2月	25,735		
3月	22,325		50,000
計	314,220	179,000	50,000

3) イベント

4月	5日	障害者週間太子町役場販売
	8日	武田英祐一さん LIVE
5月	13日	ゆいマルシェ
	20日	ゆるっとマルシェ
	28日	親子3世代マルシェ
7月	22日	ちやのきの夏まつり
8月	11日	町内ボランティア&障害福祉サービス事業 ONEDAY ショップ
9月	28日	障害者スポーツ大会景品（菓子類納品のみ）

10月	19日	武田英祐一さんLIVE
	20日	武田英祐一さんLIVE
	21日	西播磨フロンティア祭
	29日	あすかの家まつり
11月	3日	太子あすかふるさとまつり 太子町物産展
	22日	兵庫県立龍野北高等学校文化祭（菓子類納品のみ）
	25日	太子町ふくしフェスティバル
12月	4日	障害者週間太子町役場販売

4) 研修

【外部研修】

日 時		内 容	場 所	参加者
4月	26日	令和5年度西播磨地域障害者就労支援施設等連絡協議会 役員会	西播磨県民局龍野庁舎	1名
5月	22日	令和5年度西播磨地域障害者就労支援施設等連絡協議会 総会	西播磨県民局龍野庁舎	1名
7月	14日	農福連携ネットワーク会議 in 西播磨	西播磨総合庁舎	1名
8月	9日	令和5年度第1回播淡地区職員研修	姫路総合福祉会館	1名
9月	8日	就労系サービス管理責任者のスキルアップ&ネットワーク研修	兵庫県民会館11階パルテホール	1名
	25日	令和5年度会計実務担当者研修	兵庫県福祉人材研修センター	1名
11月	22日	令和5年度西播磨地域障害者就労支援施設等連絡協議会 役員会	西播磨県民局龍野庁舎	1名
	29日	令和5年度第2回播淡地区職員研修	姫路市市民会館	1名
12月	22日	令和5年度西播磨地域障害者就労支援施設等連絡協議会 役員会	西播磨県民局龍野庁舎	1名
2月	28日	令和5年度西播磨地域障害者就労支援施設等連絡協議会	西播磨県民局龍野庁舎	1名
3月	6日	令和5年度西播磨地域障害者就労支援施設等連絡協議会 総会	西播磨県民局龍野庁舎	1名
	26日	令和5年度太子町障害者基幹相談支援センター研修 障害者虐待防止研修	太子町役場	1名

5) 振り返り

(1) 利用者の増員

利用者の増員を目標に掲げていました。今年度は2名増員することができました。

しかし、まだ定員15名に達していないので、利用者、ご家族のニーズは何なのか分析し、そのニーズ沿ったサービスを提供して増員に繋げていきます。

(2) 作業の充実

現在、割り箸の袋詰めの軽作業、ちやのき café の厨房での調理・お菓子の製造、包装、販売、地域のイベントへの参加、農作業と様々な作業を提供しています。しかし、製造の部分と耕作放棄地の草刈りは、現状作業が行える利用者が少ない状況です。

どうやって作業を提供すれば、利用者が作業が行えるのかを職員間で考え、話し合い、情報共有していきます。

今後、利用者が増えた時の仕事の内容や量を考えていく必要があります。作業の充実も、利用者増員に繋がるので令和6年度も引き続き作業の充実を目標にしていきます。

(3) 農作業（耕作放棄地の草刈り）

令和2年度から継続して行っているハンマーナイフ草刈り機を使っての耕作放棄地の草刈り。今年度は、人手不足と暑さから草刈りを行う場所を減らすことになりました。

(4) 地域との交流

地域イベントに参加したり、「ちやのきの夏まつり」と題して、第2駐車場で夏祭りを行ったりと地域の方に知っていただける機会となりました。

(5) ちやのき café の活用

ちやのき Café を開放し、LIVE やイベント、ヨガ教室を開催しました。

また、地域の方の集まりや、福祉施設に向けてランチタイムの貸切営業を行いました。

その他に学習室として毎日15時からちやのき café を開放しています。

(6) 職員の質の向上

①研修

令和5年度は、職員が研修にあまり参加することができませんでした。外

部研修に参加する機会は少なかったですが、参加した研修で他事業所との情報交換を行い、それを持ち帰ることで、成長する機会となりました。令和6年度は、支援に必要な研修には積極的に参加していき、研修で学んだことを身に着け、支援の質の向上に努めていきます。

②障害特性の理解

障害特性を理解し、利用者ひとりひとりに合った支援が提供できるように職員が知識を身に付けなければなりません。また、知識だけではなく、利用者が安心して通えるような場所になるように努めていきます。

15. 「障害者支援施設あすかの家」・「ちやのきのいえ」 医務部

1) 救急搬送 … 年間2件

- (1) 1件目…意識レベル低下、救急到着までに意識覚醒するがそのまま姫路赤十字病院搬送。採血問題なしにて帰園。その後も特に異変なく状態安定。
- (2) 2件目…意識レベル低下し朦朧状態。救急搬送もCT問題ないため帰園するが、帰園後嘔吐 再度救急搬送し、検査目的にて1泊2日の入院となった。救急が来ても、搬送先が決定するまでに1時間を要した。長時間を要するという事は、助けられる生命も危うくなるので、迅速に対応できるよう支援員に周知したい。
- (3) 救急搬送ではなかったが、休日に、ある利用者の左肘に腫脹・熱感があり、可動域も狭く骨折が疑われるケースがあった。休日夜間救急センターに当番医・診察可能な病院を探してもらいこちらから連絡するが、受け入れ先がなかなか見つからず、何とか龍野の栗原病院で受診できた。その結果骨折と診断され、ツカザキ病院（紹介）にて手術となった。

2) 疾病の早期発見・早期治療

年2回の健康診断は感染等に留意したうえで無事実施できた。健診結果は、囑託医師に診断してもらい、特に内服開始、再検査となった利用者はいなかったが、生活習慣病予備軍が増加傾向のため、生活習慣病の予防を継続し健康な生活が送れるように努める。

3) 通院（利用者の年間延べ通院回数）

病院名	通院回数	病院名	通院回数
揖保川病院	16回	佐久間耳鼻科	13回
開発医院	5回	いしづか乳腺クリニック	1回
太子病院	45回	長久天満診療所	7回
富岡歯科	15回	たつの市民病院	2回
松浦眼科	5回	西田医院	2回
はましげ皮膚科	3回	井上整形	1回
姫路赤十字病院	13回	森本歯科医院(ニース 歯科)	1回

- (1) 揖保川病院（精神科）… 定期受診。採血・心電図検査に加え、てんかん発作のある方は1年に1回、脳波検査実施している。
- (2) 開発医院（内科）… 当法人の嘱託医。今年度は、コロナワクチン・インフルエンザワクチンの予防接種を事業所に来園して実施していただいた。健康診断の結果も報告し必要者は再検査を実施し診断を仰いだ。
- (3) 太子病院（外科・整形）… 怪我など外科的治療、または骨折疑いがある場合に通院している。前年度と同じく今年度は怪我での受診が減り、通院回数も減っている。
- (4) 富岡歯科（歯科）… 毎月1回、往診を依頼している。往診の際に治療が必要と認められた利用者は、迅速に対応し通院治療している。
- (5) 松浦眼科（眼科）… 白内障・緑内障・眼脂（めやに）などで通院。
- (6) 佐久間耳鼻科（耳鼻科）… 長らくお世話になっていたが、現在は閉院。今後は、姫路市大津の瓦井耳鼻科への通院を検討している。
- (7) はましげ皮膚科（皮膚科）… 爪白癬・いぼ等突発的な事案に対しての通院、定期的受診の必要な利用者の対応をしている。
- (8) 姫路赤十字病院 … 定期受診、骨折術後経過のため通院している。救急搬送（日帰り）での受診もあった。

- (9) 長久天満診療所（泌尿器科）… 前立腺肥大にて通院。
- (10) 西田医院（皮膚科）… 慢性湿疹・アトピーのため軟膏処方につき定期通院をしている。
- (11) 栗原病院 … 休日診療にて整形外科を受診した。
- (12) ツカザキ病院 … 救急搬送（1泊2日）、左肘小頭骨折手術入院（1泊2日）

4) 今年度の振り返り・来年度目標

年度末に職員・利用者がコロナに感染し棟隔離・居室隔離となりましたが、感染が拡大することなく収束できました。世間では、コロナ感染者も減ったり、増えたりと安定していません。冬期は、ノロウイルス・インフルエンザ等感染症が多い時期となりますので、「感染しない、持ち込まない」をモットーに今後も感染予防・管理に努めたいと思います。

今年度は救急搬送が2件ありました。救急車を呼んでも、受け入れ先病院の決定に時間を要することがあります。1分1秒を争う急性疾患というケースも想定されるので、有事の際に看護職員が不在であっても、救急を呼ぶのが遅れ、救える命も救えなかったということがないようにしなければなりません。また、怪我に対しても、本人が「大丈夫」と言っているにもかかわらず利用者の身体を触診したり、観察力・洞察力を持って救急要請・病院受診判断が迅速にできるよう、管理者・主任・支援員等を対象とした勉強会等を来年度は実施できたらと考えています。

また、あすか会も高齢利用者が増えており、介護技術が要求される時期もそう遠くないと思いますので、介護方法の勉強会も検討します。

「健康はすべてに優先するものであることを根本に、各利用者の健康に配慮し、その保持増進に努める。日常生活のあらゆる場面で病気・怪我を防止し生活を支援する。」をモットーに来年度も邁進します。